

# 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 鹿児島県 】

学校名【 薩摩川内市立川内北中学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・V
2 実施対象者 (学年・人数)	薩摩川内市立川内北中学校 全校生徒 741名 鹿児島車いすスポーツクラブ ぼっけもん(車いすバスケットチーム) ナフティ(車いすバスケットチーム)
3 展開の形式	学校における活動 (1) 教科名( 道徳 ) (2) 行事名( オリンピック・パラリンピック教育講演会 )
4 目標 (ねらい)	(1) 趣旨 オリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学びを通して、ボランティア精神の育成や共生社会の構築、スポーツに対する興味・関心を高める。 (2) ねらい ア オリンピック・パラリンピック(以下:オリ・パラ)の意義、スポーツの価値、共生社会の構築について学ぶ。 イ パラリンピアンから努力の大切さ、他者への思いやりについて学ぶ。
5 取組内容	《オリンピック・パラリンピック教育講演会》 (1) リモートによる講演会(全学年) 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター研究助手である岡田悠佑先生と女子車いすバスケット選手(パラリンピアン)である網本麻里選手を講師に招き、リモートによる講演を行った。 生徒は、教室のテレビで講演を視聴した。 岡田先生の「オリンピック・パラリンピックの開催は、世界平和や共生社会を目指した大会である」といった講演や網本選手の「障害の有無に関わらず努力することで、選手活動が実現できること」などの話は、生徒たちにとって、とても意義ある講演であった。



(2) 車いすバスケットボールの観戦と体験活動（学年ごと）

ア 講師と車いすバスケットチームによる模擬戦

講話のあと、体育館で各学年1時間ずつ体験活動の時間を設けた。

地域の車いすバスケットチームを招聘し、実際の車いすバスケットの試合を観戦することで激しさを体感した。



イ 車いす試乗体験の部

実際に専用の車いすに試乗し操作をしたり、シュートをしたり、することで、車いすの操作の困難さを体感することができた。



ウ 車いすリレーの部

学級対抗で、リレーを行った。講師の先生チームとリレー対戦することで、車いす操作のスピードの違いに驚いていた。



エ ゲームに挑戦の部


最後に、車いすバスケットチーム2人と職員、生徒の選抜チーム8人でゲームを行った。

【生徒感想】



・ 講演会を受けてオリンピック・パラリンピックに込められた思いを知ることができとても良かった。体験活動では、自分達は操作することで精一杯だったが、車いすバスケットの選手は車いすを巧みに扱っていて本当にすごいと思った。来年のオリンピック・パラリンピックがとても楽しみになった。（3年男子）

・ 今回のオリパラ教育講演会を通して今まで感じていた「かわいそう」などとは思わなくなりました。車いすリレーを体験してみてわかったことは、曲がるのがとても難しいということです。（中略）今なら障害もみんなと同じような個性と感じる気がします。（3年女子）

	<p>《道徳の授業「30点の金メダル」 3年各学級》</p> <p>本校では、道徳科をローテーションで実施している。</p> <p>校長が行った道徳の授業で、オリンピック・パラリンピック題材である「30点の金メダル」を取り扱い、努力し続ける大切さ、オリンピックの開催意義などについて考えさせることができた。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリンピック・パラリンピックについて興味が深まり、大会自体を楽しみにする生徒が増えた。特にパラリンピックについての意義や競技についての知識が深まり、共生社会について考える生徒が増えた。</li> <li>○ パラリンピアンの方の生き方に触れ、努力する姿にあこがれを抱いたり、障害の有無に関わらず偏見のない感情をもつことができるようになった。</li> <li>○ 地域の車いすバスケットボールの選手に本校教諭の子供（大学生）がおり、年齢の近い障がい者の活躍をみて感動する生徒もいた。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校目標と本事業のねらいをつなげ、「礼儀正しく思いやりのある生徒」となるように、職員の共通理解を図り、事業を実施することができた。</li> <li>○ リモートで講演を行うことにより、画像や映像を効果的に見ながら、講演を聞くことができた。また、講師の二人の掛け合いがスムーズで、講師との近さを、より近く感じることができた。</li> <li>○ 地域の人材を活用することで、本格的な模擬戦を観戦したり、生徒の体験活動で障がい者と触れ合ったりしたことで、生徒の障がい者に対する意識の変化につながった。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業説明から教育講演会までの時間がなく、日程調整で御迷惑をかけたと思う。来年度は継続することを意識して教育課程の編成を行いたい。</li> <li>○ 新型コロナウイルス感染症予防対策の影響もあり、講演会以外の活動の充実が図れなかった。次年度に向けて、教育活動に広く反映させていく必要がある。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリンピアン・パラリンピアンの方の招聘、講演会の実施</li> <li>○ 道徳科におけるオリンピック・パラリンピックを取り入れた授業（共生社会について）</li> <li>○ 保健体育科と連携した授業の実施</li> </ul>